



麻布幼稚園だより

令和6年7月号
港区立麻布幼稚園
園長 酒井 正美

今年は梅雨入りが遅く、梅雨明けはまだまだ先になりそうです。大人にとっては困ることがある雨も、子供たちにとっては楽しいことの一つでもあります。

先日は急に強くなった雨に、年長組の子供たちが「わー、すごいね。」「大雨だ!」と友達と話をしながら、空から落ちてくる大粒の雨をじっと見たり雨の音に耳を傾けたりしていました。



天気のよい日には、水を使った砂遊び、色水遊びなど、この時期ならではの遊びが展開されています。今月は、プールや水を使った遊びをたっぷり楽しみ、水の心地よさや水の特性、おもしろさを十分に味わっていきたいと思います。

小学校の「学習指導要領」にあたる、「幼稚園教育要領」には、「幼稚園教育において育みたい資質・能力」や、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されています。これらは、幼児の学びにつながる体験により育まれます。教師は、幼児の発達や興味・関心に合わせた遊びや生活が展開されるように環境を準備して幼児の学びを支えます。

中でも、幼稚園で友達とかかわり様々な体験を重ねることは、貴重な機会と考えます。たくさん友達と関わりながら遊ぶ中では、自分の思うようにいくことばかりではありません。相手に嫌な思いをさせてしまうこともあります。自分の気持ちを調整し、折り合いをつけなければならないこともあります。気持ちが高じて相手を叩いてしまうということも起こります。相手を叩いてしまったり、相手を傷つけるような言葉を使ってしまったときには、教師はその場で、してはいけないことについてしっかりと伝え、謝るべきことは謝れるようにしていきます。同時に、年齢に応じて相手に伝えたいことは何だったのか、何が嫌だったのかなどの思いを聞いたり受け止めたりしながら、自分の言葉で相手に伝えられるように支えていきます。自己主張のぶつかり合いや葛藤などが起こらないようにするのではなく、そのような場面で、自分を振り返り、どうしたらよいのかを考える機会をつくるのが大切です。そういったことを繰り返し、子供たちは自分や相手の気持ち、行動の結果や状況に気付き、自分で考え行動するようになっていきます。

一人ひとりに個性があり学び方はそれぞれですが、「人も自分も大切に」し、人と関わる楽しさを味わえるようになってほしいと思います。

たくさんの子供たちがいる中、子供たち一人ひとりに個性があるからこそ体験できることが、幼稚園にあります。自己主張のぶつかり合いや葛藤などを通して互いに理解し合う経験は、幼児の「道徳性・規範意識の芽生え」「人と関わる力の基礎」が育つために必要です。これらの経験が互いの子供にとっての大切な学びにつながるように、共に子供たちの成長を支えてまいりましょう。